

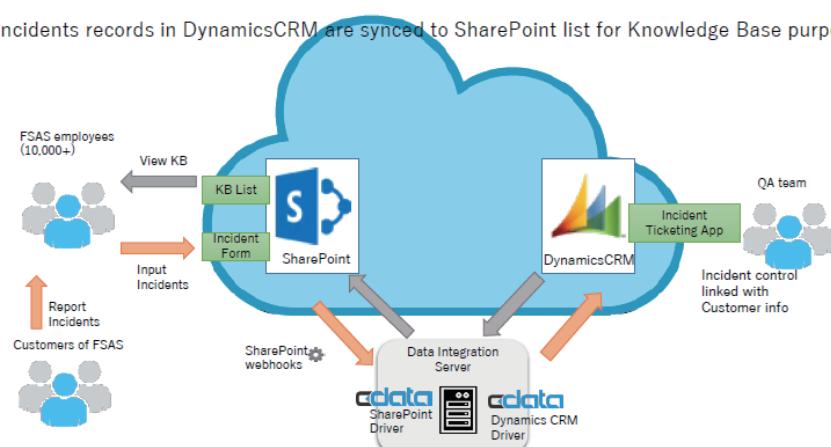
## 株式会社富士通エフサス

本社ホストの Dynamics CRM、SharePoint に対し、エフサス側でデータ中継サーバを構築し、両システム間でシームレスにデータ同期を実現

日本トップクラスの IT 企業として幅広い製品・サービスを提供されている株式会社富士通エフサスにおいて、自社のイシュートラッキングシステムに CData 製品を導入頂きました。富士通グループで運用されている Microsoft SharePoint、Microsoft Dynamics を使って、1 万人以上が利用する社内のイシュートラッキングシステムを構築され、SharePoint と Dynamics CRM の間を CData ODBC Drivers を使ってシームレスな同期を実現されました。

➡ SharePoint is used as input form of incidents and such incident inputs are automatically passed to Dynamics CRM where Q&A people controls incidents.

➡ Incidents records in DynamicsCRM are synced to SharePoint list for Knowledge Base purpose.



### SharePoint と Dynamics CRM 間のデータ同期ニーズ

富士通グループではグループウェアの Microsoft SharePoint、顧客情報を集約している Dynamics CRM を利用されています。富士通エフサスでは顧客リレーションをサポートする Dynamics CRM 上でサポートやイシュートラッキングまでを顧客情報として一元的に管理したいというニーズがありました。一方、社内 QA チームとしては社内システムの管理と顧客システムの管理は別のものではなく、双方のイシュートラッキングを同じチームが担っているため、単一のシステムでの対応を希望していました。さらに、10,000 人を超える社内のスタッフは SharePoint に慣れ親しんでおり、フロントツールは SharePoint したいという事情もありました。このように顧客情報の一元管理、社内外のシステムのイシュートラッキングの単一システムでの管理、フロントシステムの統一というニーズすべてを満たすべく、Dynamics CRM での社内外のイシュートラッキングシステムの構築、フロントシステムとして利用する SharePoint と Dynamics CRM とのデータのリアルタイム同期を前提にシステムを構築することとなりました。

そこで CData ODBC Driver for SharePoint、同 Dynamics CRM の 2 製品を導入頂き、SharePoint と Dynamics CRM との間に中継サーバーを立てることで、両システム間のデータ同期を実現されました。

SharePoint と Dynamics CRM との連携アプリケーションを開発するうえでのどのようなボトルネックがあったかをプロジェクトを主導された富士通エフサスの小路様、小林様に伺いました。

**Q: システムを構築される上で、どのようなボトルネックがありましたか？**



小路様：API を扱う人材確保、API 連携部分のメンテナンス、ツール利用の場合の価格とツール習得の時間コストの三つが大きな問題でした。社内にも SharePoint、Dynamics CRM の API を扱えるエンジニアは多く居ますが、そういうエンジニアは顧客の案件に引っ張りだこでなかなか社内システムの案件で使うことが難しいです。また、API は頻繁に更改されるため、一度連携システムを組んでも API が変わるたびにメンテナンスとして API を扱えるエンジニアを投入することには抵抗がありました。そこで国内大手の EAI ツールの利用を検討したのですが Dynamics CRM には対応していましたが、SharePoint には対応していませんでした。また、新しくツールを利用する場合、ツールの価格プラス習得コストがネックでした。

**Q: CData ODBC ドライバーの評価ポイントは？**

小林様：CData ODBC ドライバーは、RDBMS/SQL に慣れ親しんだエンジニアが誰でも直観的に扱える点です。API を直接叩かずに標準 SQL で操作ができるところが素晴らしいです。いい意味で不要な機能がなくシンプルな作りとなっている点が我々のようなプロフェッショナルにはうれしいです。今後のメンテナンス面でも CData ドライバーが API の変更に対応してくれる訳ですから安心感があります。コストも比較した EAI ツールの 1/10 程度と大変魅力的でした。



**Q: 実際に CData ODBC ドライバーを開発に使われてのご感想は？**

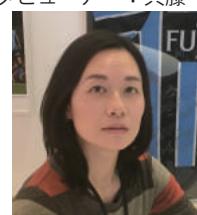
小林様：使ってみて本当に SQL で API 連携を実現することができたので、導入時の想定通りの使い方ができたと思います。また、日本チームの技術サポートも迅速かつ行き届いており、大変安心しています。

**Q: 今後の日本のエンタープライズデータ連携について一言おねがいします。**

小路様：複数の SaaS を同社内で利用するマルチクラウドの時代だからこそ、このようなシンプルな API 連携ツールのニーズは益々高まっていくと思います。API 連携機能自体をクラウド提供というニーズも増えると思います。自社でのサービス提供も含めいろいろと考えていきたいです。



CData Software Japan 合同会社  
インタビューアー：兵藤



CData は、米 CData Software inc. の登録商標です。他社製品名などは各社の商標です。

TEL 050-5578-7390

URL [www.cdata.co.jp](http://www.cdata.co.jp)

Email [sales@cdata.co.jp](mailto:sales@cdata.co.jp)

copyrights all rights reserved @CData Software Inc.